

昼間は暖かくても、朝夕は冷え込む季節になってきました。子どもは外気温の影響を受けやすいため、大人より早く寒さを感じやすいです。朝の登園や、夕方におうちに帰るときは温かくしてあげましょう。

風邪をひかないためには、何をしますか？



免疫には、体に侵入したウイルスや細菌などの病原体と戦ったときに、その武器（抗体）を残しておき、次に同じ病原体が侵入したときに、速やかに撃退できる仕組みがあります。そのため、子どもは成長とともに風邪をひきにくくなります。

ただし、風邪の原因となるウイルスは200種類あるといわれますし、インフルエンザのように変異しやすいウイルスや、ノロウイルスのようにタイプが多いウイルスもあり、油断は大敵。感染症シーズンに備えて、下記の「3つの保」で風邪を防ぎましょう。

体を保温する



首の皮膚のすぐ下には太い血管が通っています。ここを温めると、全身に温かい血が巡ります。

重ね着で調節。静電気が起こりにくく肌触りのよい綿がおすすです。

体を冷やすと風邪をひきやすくなります。ただし、厚着をして汗をかくと、汗が冷えて逆効果。薄手の服を重ね着するほうが、中に空気層ができて保温効果が高まります。暑くなったらこまめに脱いで調節しましょう。

室内を保湿する



空気が乾燥すると鼻やのどの粘膜がダメージを受けやすくなり、ウイルスが浮遊しやすくなります。加湿器を使ったり、室内に洗濯物を干したりして乾燥を防ぎましょう。

体を保護する

保護とは「気をつけて守ること」。よく寝て、栄養バランスのとれた食事をとるように気を配り、健康を守りましょう！



現代は、テレビやゲーム、スマートフォンなど、子どもたちが体を動かさずに遊ぶ時間が長くなりがちです。お休み中も、十分に体を動かしましょう。

テレビなどの動画を長時間見せていませんか？

成長するにつれてスマホやタブレット、テレビなどの視聴時間が長くなりがちです。しかし、無制限にそれらとつきあうことが、子どもの発達に悪影響を与えることが分かってきました。

特に「乳幼児」がテレビなどを長時間視聴することが、言語の発達や社会性の遅れにつながることを日本小児科学会が報告し、どうつきあうか、6つのアドバイスを出しています。

6つのアドバイス

- 1 2歳以下の子どもには、長時間見せない！
内容・見方に限らず、長時間視聴は言語発達が遅れる危険性が高まる。
- 2 つけっぱなしはNG！ 見たら消す！
- 3 乳幼児に一人で見せない！
大人が一緒に歌ったり、子どもの問いかけに応えたりすることが大切。
- 4 授乳中、食事中は消す！
- 5 乳幼児にも、つきあい方を教える。
見終わったら消すこと。連続して見続けられないこと。
- 6 子ども部屋に置かない。



<今のところ、園でのインフルエンザの発病はありません>

インフルエンザ発症後の登園のめやす

- ・発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで。
- ・治癒後、登園する際には「登園届」の提出をお願いします。

室温管理 換気



部屋の中を温めすぎると、空気が乾燥し具合の悪くなる子が出てきます。設定温度は18℃～20℃を目安に、なるべく足元を温め、上半身は温め過ぎないようにしましょう。また、1時間に1回は窓を開けて空気の入替えを行い、加湿器などで部屋の湿度を保ちましょう。

ふえてきました 新型 コロナウイルス 感染症

新型コロナウイルス感染症の流行が全国的に広がっています。茨城県内においても、感染者が増加している状況です。保護者の皆様には、ご不便をおかけすることもあります。引き続き、感染予防対策にご協力をお願い致します。

- ・毎朝の体温測定、連絡帳への記入をお願いします。
- ・風邪症状のあるお子さんは、ご家庭での保育をお願いします。
- ・発熱した後、解熱後24時間経過しからの登園をお願いします。